

第5回 鳴門市まちづくりデザイン会議 議事録

日 時 : 令和8年2月18日 15時30分から17時30分

場 所 : 鳴門市役所 2階 大会議室

参加委員 : 内藤廣座長、永易委員、林委員、森下委員、河野委員、西谷委員、黒崎委員、池田委員

事務局 : まちづくり課 小川課長、碓主幹、林副課長、岩久保副課長、齋藤係長、大端係長、八幡主事、戦略企画課 吉川課長、公園緑地課 清水課長

発言者	主な発言内容
事務局	只今より、第5回 鳴門市まちづくりデザイン会議 を開会いたします。 開会にあたり、座長より、ご挨拶をお願いします。
内藤座長	<p>皆さん今日もよろしくお祈いします。今日で5回目になるんですね。</p> <p>これまで会議を重ねてきましたが、今回は傍聴の方も多く来られて、関心の高さを感じています。今年度はこれが最後の会議となり、年度の区切りとして中間的な取りまとめになると思いますので、よろしくお祈いします。</p> <p>普通だったらこれで議事に入るんですけど、最近いろんなところでお話していることの一端を共有しておきたいと思ひます。私の大学でもチームを作って調査したり、関係者から情報を収集する中で考へていることがあるので、それを手短にお話します。本当は1時間くらいお話ししたいところですが。</p> <p>皆さんに覚へておいてほしいのが「2035年」という年です。私はこれが一つの大きな節目になると思ひて、「2035年問題」として講演したりすることもあります。いろいろと調べていくと、10年後の2035年頃に様々な社会の変化が重なってくる。大した未来ではなく、10年後なんてすぐ来てしまひます。</p> <p>今日は私が持っている情報を皆さんに少し共有しながら、まちづくりの話に繋げていきたいと思ひます。いま私たちが議論しているこのビジョンなども、10年という時間で考へると短いですよ。本当は50年後の未来などを見据へて考へる必要があるのかもしれないですが、まずは10年後の2035年をどう考へているのかについて皆さんと情報共有したいと思ひます。</p> <p>例えば教育分野では、私は大学の学長をやっていますので、文科省からいろいろデータが届きます。文科省の公式発表によると、2040年頃に向けて大学の統廃合が進み、毎年90校程度の大学が閉鎖されていきます。つまり、必要性の低い大学は統合や廃止が進んでいくということです。</p> <p>また、昨年示された方針では、定員割れした学科については運営費交付金、いわゆる国からの補助を出さないという方針が示されています。つまりこれまでのような延命処置はしないということです。全国の大学がバタバタと潰れていきます。それが非常に顕在化して始まってくるのが2035年頃だと言われています。</p>

	<p>次に、我が国の人口構成は、戦後のベビーブームによる団塊の世代とその子ども世代二つの山がある「フタコブラクダの人口構成」と言われていますが、その2コブ目が後期高齢者になってくるのが2035年から2040年頃です。</p> <p>おそらくJRさんなど鉄道インフラを担う企業などはこれらを長期予測して、乗降客数の減少を見据えた議論を行っているので、割とそういった情報は持っていると思います。</p> <p>もう一つは、AIやDX等の話。これまでAIの時代が来ると言われたことは2回あり、2000年前後と2010年前後にブームがありました。当時はコンピュータの性能が十分ではありませんでしたが、3回目となる今回は、コンピュータがAIをサポートするだけの十分な性能を備えています。</p> <p>さらに、2035年頃には、量子コンピュータの実装が予測されていて、そうなると、今のスーパーコンピュータの1桁倍の能力が汎用化される。分かりやすく言うと、今のスパコンだと3億年くらいかかる演算が2分とか5秒で出来るような時代が来ます。</p> <p>教育の面でも、来年度から教育指導要領の見直しがあって、小学校一年生からAI教育を受けることとなります。その子どもたちが小学校6年生くらいになると、今の先端技術者のようなAIリテラシーを持ち、その10年後には大学生や社会人になっているという、そういう時代が来ている。</p> <p>また、リニア新幹線が公式発表では2034年以降となっていますが、2035年くらいには名古屋まで開通します。これは、日本列島の骨格、あり方が大きく変わってくるという話です。</p> <p>このように、2035年頃にはいろんな大きい流れの焦点が合ってきます。いま、私たちは10年後の鳴門について一生懸命考えているけども、それが現実のものになるのは5年、10年かかります。そうした時代の中でまちづくりを進めていく必要があるということ、頭に入れておいていただきたいと思えます。</p> <p>ひょっとするとその間に南海トラフが起こるかもしれない、関東地方では富士山が噴火するかもしれない。それらは予測しようが無いけれど、その激動の時代の中で鳴門市が生き延びられるよう、鳴門の若い人たちが、故郷を大切に育て場所をつくっていくということが、いまみんな考えなければいけないことだと思えます。</p> <p>そうした10年後の未来を頭の片隅において、本日の資料を見ていただければと思います。それでは、事務局より本日の議事の説明をお願いします。</p>
事務局	(事務局より、前回の振り返りと現状報告の説明を行う。)
内藤座長	<p>スポーツ施設に関する大きい流れは決定事項として、我々がどうしてもこれは揺るがないということを前提にご意見いただければと思います。</p> <p>では、検討委員会に参加していた黒崎委員からお願いします。</p>
黒崎委員	昨日も検討委員会に参加していました。駅周辺に整備することで活性化や賑

	わいの創出につながるのではないかという意見もありましたが、時間軸が合わない、早期に実現してほしいという意見が大半で、検討委員会ではボートレース場鳴門西側で建設を進めるという意見に集約しました。
森下委員	私も昨日参加させていただいて、長期的な目線で、運用コストも含めて建設地を検討してほしいという意見を出しました。しかし、早く施設が欲しいという意見もあり、デザイン会議と重ねて議論を行うことは難しいという印象でした。どのように鳴門市のことを考えるのかという部分は委ねる必要があると理解しました。ただ、いろんな考え方があるということをご共有できた点は、参加して良かったと感じています。
内藤座長	<p>検討委員会での決定事項は尊重しないとイケないですね。ただ、スポーツ関係者の皆さんの早く欲しいという切実な願いがある一方で、それならばその施設を 100%あるいは 150%利用するという責務もその方々に同時に発生していることを認識してもらいたいと思います。立派な施設を作ったけど、ほとんど利用されていないという施設は山ほどありますので、どうしても欲しいと強く主張された方は、使う責任も負っていると私は思います。</p> <p>スポーツ施設によくあるのが、すごい立派な施設なんだけど、昼間に 5 人とか 10 人くらいしか使っていないような状況。市の税金を投資してるわけだからそれではまずいんだよね。だから、いろんな形で知恵を出して、より多くの市民の方がいつも使っている状態をつくらなければいけないですね。</p> <p>デザイン会議の側からすると、検討委員会の意見は尊重しますが、どうすればその施設が最大限活用される状態を作ることができるかについて真剣に考えていただきたい、ということをご伝言いただきたいと思います。</p> <p>私の大学でも、美術館をつくりたいといった話も出ますが、投資額を利用人数で割って、一人一人の学生にどの程度の負担が生じるかを計算して判断しています。そうすると冷静になれるので、それでもみんながやるべきだということであればやれば良いと思うんです。</p> <p>また、昨今の建設事情は異常で、コストが大幅に膨らんでいることから全国の自治体の大型プロジェクトがどんどん遅延あるいは中止になってきています。そのため、鳴門市としては、かなり覚悟を持って臨むプロジェクトになると思っています。用意周到に用心深く、なおかつ大胆にやるべきだと思います。</p>
河野委員	<p>プールと体育館の話についてですが、デザイン会議からも 2 名の委員が 2 回参加されており、その委員会でのお話を私も伺いました。確かに先生がおっしゃるように、委員会で決まったことは尊重すべきであると思います。</p> <p>ただ、一市民として考えたときに、プールは水泳を習いたい人や健康維持などを目的とする人が利用する場所だと思います。ずいぶん前からボートレース場敷地内に整備されるということは聞いていましたが、体育館も一緒に整備することになっているというのは今回初めて知りました。</p> <p>もし一緒に整備するのであれば、施設規模も大きくなりますし、ボートレース場敷地になるのだろうとは思いますが。ただ、これは一市民としての意見です</p>

	<p>が、私はプールと市民会館のような施設が整備されると思っていました。市民会館は体育のイベントもたくさんありましたが、私が学生の頃には、文化祭のような形で軽音部がライブをしたり、家具の展示会が行われたりと、スポーツだけでなく文化や商業の面でも様々な使われ方がされていたので、そうした施設ができるんだろうなと思っていました。</p> <p>そうなる色んな目的の方が利用するので、プールはアーバンスポーツエリアでもあるボートレース場敷地に整備するとしても、文化施設的な意味合いを持つ体育館については、必ずしもプールと一体で整備する必要はないのではないかと思います。市民会館のような施設であれば駅前の方が使いやすいのではないかと個人的には感じています。</p> <p>また、この話を市民の皆さんがどこまでご存じなのだろうとも思いますので、もう一度市民の皆さんに意見を聞いてみるのもいいのかなと思います。</p>
内藤座長	<p>プールと体育館は同じスポーツ施設なんだけど、本来は利用の仕方が全然違うんですね。例えば体育館であれば、夜にママさんバレーの練習が行われることもあるし、お祭りの会場や雨天時のイベントで使うなど、マルチユース的な側面があります。一方、プールは水泳をやる人しか使わないので、もともと持っている機能が全然違うんだと思います。それを一緒に作るという結論を出したわけですけど、分けて整備するっていう発想は無かったんですか。</p>
事務局	<p>委員会では、同じ建物、二階建てでという発想で検討されていました。</p>
内藤座長	<p>一般的に考えると、大きなスパンを飛ばす構造で2階建てにするというのは、そんなに効率のいいことではない。プールは、水で満たすと1,000トンくらいの荷重を持った施設になるので、1階にプール、2階に体育館という作りになると思います。ただ、体育館が2階部分になると、イベントの際の搬入など一般市民の人が利用しにくくなる。本来であれば1階部分が多目的利用に向いていると思いますが、敷地が無いから2階建てにするというのが少し無理を生じさせているようにも感じます。</p> <p>本当は、体育館はまちなかにあって、いろんな人に使ってもらえる施設として整備するというのが正解かなという気がします。</p>
林委員	<p>現在、小松島市では小学校の再編が検討されており、再編前に、遠方からの通学に対応できるかを実証するため、バスの路線を再編しています。阿南市でも中学校の再編をしており、まちの機能が変わっていく中で、5年後10年後も使ってもらえる方法を検討していく必要があるかなと思っています。</p> <p>また、施設を無理に使ってもらうために機能を追加していくと維持管理費も増えていきます。もちろん建てやすさも重要な観点だと思いますが、限られた財源の中で、まちとしてどのような機能を残していくかを考えていく必要があるのではないかと思います。</p>
西谷委員	<p>ボートレース場敷地は、湿気と塩分が多く、老朽化が進行しやすいのではという懸念があります。</p> <p>例えば、北島町のプールなどを見ても結構な老朽化が進んでいます。大</p>

	<p>きいものを建てすぎてしまうと、次に何か新しいことをするときには障害になってしまうということを考えると、他の委員さんが言うようにプールだけで整備を進める方がいいのかなと思います。</p> <p>10年後を見据えたとき、鳴門の小学生もこれまで30人いた学年が15人くらいまで減っており、さらに下の世代はもっと減っていくと思います。</p> <p>ただ、学校のプールはものすごく老朽化しているという話は聞きますので、今の子どもたちが卒業するまでには、早急に整備を進めてほしいという思いもあります。</p>
永易委員	<p>建設コストの増加に関しては、我々としても痛感しており、少し前であれば成り立っていたものが成り立たなくなっている現状があります。また、建設業者自体がなかなか捕まらないという話も聞いており、長期的な目線で物事を考えていく必要があると思っております。</p> <p>プールについては、建設地がボートレース場敷地になるのであれば、まちの機能が鳴門市の中で点在することになるので、中心市街地とどうつなげていくのか、公共交通機関も含めて回遊性整備の検討が必要になると考えております。</p>
内藤座長	<p>駅とどうつなぐかという話が出てきますよね。</p>
池田委員	<p>昨日の会議も聞いておりました。スポーツ団体からのご意見や駐車場が十分に確保できない場合には大きな大会の開催に支障があるといった切実な問題もあると思います。一方で、駅跡地やセンター街跡の底地がどうなるのか、時間軸として10年後を見据える必要がある中で現状はどうかといった議論もあり、委員会の中でそうした点を踏まえて価値判断をされていたと認識しています。</p> <p>その中で、規模や運営の仕方については引き続き吟味が必要だということ、アーバンスポーツエリアとしては良いのではないかという意見がある一方でまちなかとどうつなぐのか、車だけでなく自転車なども含めて、まち側で考えていかなければならないのではないかと思います。</p> <p>また、まちなかにおける「会所」的な機能をどのように考えるのかという点については、明確な答えはまだ出ていませんが、今後半年から1年程度の期間で方向性を検討していく必要があるのかなと思います。</p>
内藤座長	<p>どこかで決断をしていかないといけない状況だと思います。だからこそ、10年後に向けたはっきりとしたビジョンを描く必要があり、それがこのデザイン会議の役割です。</p> <p>施設の整備時期が多少遅れてもよいと思いますが、それよりも子どもたちにどう語れるかが大事だと思います。「何年後にはまちにこれができる」「このまちはこうなっていく」ということを大人が確信を持って伝えられるかどうか。それが言えないと無責任です。</p> <p>その意味では、今回スポーツ施設がデザイン会議の検討範囲外となってしまったことは非常に残念です。立派な施設ができてまちが衰退してしまうということもあるので、大事なのはまちなかを置いてきぼりにしないこと。知恵を</p>

	<p>出し合って、うまく進めていってほしいと思います。</p> <p>また、せっかく JR さんにも参加していただき、駅も含めて何とかしていこうという動きが生まれているわけですから、この熱が冷めないようにしていただきたい。もしまだ私たちが把握していない情報があるのであれば、出来るだけ早い段階で共有していただきたいと思います。</p>
事務局	(事務局より、議事 2 まちなか未来ビジョン素案についての報告を行う。)
内藤座長	<p>第 6 回デザイン会議が 5 月上旬に開かれるということによろしいですか。</p> <p>ただ、すでにパブリックコメントを実施しているので、そこで改めて議論するというよりは、ある程度調整されたものを皆さんに確認いただくような会議になるのかなと思います。</p> <p>パブコメはどのような形で実施するのでしょうか。</p>
事務局	ウェブサイトにも掲載しますが、窓口で提出いただくことも可能です。
内藤座長	未来ビジョンは最終的には紙に印刷したものになるのでしょうか。
事務局	それも考えてはいますが、Web に公開し、広く提示することを考えています。
内藤座長	<p>概要版でもいいので、印刷物として各団体に配布できるような資料があったほうが良いと思います。特に年配の方はウェブサイトを見ない方も多いと思いますので。</p> <p>中学生や高校生が見ても、自分たちのまちが今度どうなっていくかをイメージできるような内容になっているといいと思いますので、その点についても検討をお願いします。</p>
池田委員	<p>これまで 4 回議論してきましたが、若者へのアンケート結果を見ると、彼らはまちに出てきたくないわけではなくて、そういう場所があれば出てきたいという意見が多くあります。それに対してどう応えていくのかが重要だと思います。</p> <p>基本方針の中に、これまでの議論がきちんと集約されているのかという点が一番気になっているところですが、若者に支持されるわくわくできるまちなかを目指して、そこで色々な属性の人が混ざり合いながらまちを使っていくことを目指すということが基本的な方向だと思います。</p> <p>そのためには、まちを俯瞰して見なければいけない。現在のまちの構造は 50 年前あるいは 30 年前には駅の西側も東側も栄えていましたが、現在では、駅西側が「駅裏」だと表現されるような状況になっています。これをどのように再生していくのかという点については、同じように作り直すということではなく、まちのコアも含めた都市構造についてしっかり議論していく、谷通りや大道商店街、ウォーターフロントを大事にするということが主なポイントだったかと思います。</p> <p>また、それを実現するためには、民間の方も含めてみんなで一緒に取り組んでいく必要があります。行政がまず動き、事業を進めるだけではなく、現場に顔を出しながら、社会実験などにも一緒に取り組んでいくことが重要であり、そうした取り組みを一緒に進めていけるかどうかがかぎを握っているという思</p>

	<p>いを基本方針の中には込めたつもりです。</p> <p>一方で、このビジョンを見てもなかなか伝わらない部分があるのではないかと考えていて、鳴門ならではの要素がやや少なく、もっと泥臭く、鳴門の人で無ければ表現できないような部分を盛り込んでいく作業が必要ではないかと思えます。</p> <p>また、これはまだ基本構想の段階なので、このような考え方で今後検討を進めていくことについて議論していくためのベースになるものです。しかしこれを見て、これだけでは判断できないのではないかという意見も出てくると思います。そのため、このビジョンの中に、今後こういった形で意見交換やワークショップなどを行い、検討を進めていくかといったプロセスを示しておいた方が良いのではないかと思います。</p> <p>最後に、最近これまで話をしたことが無かった事業者の方などとお話をする中で、「まちを変えようとしているというのであれば一緒に考えますよ」と言ってくださる方が増えてきたように感じております。そうした方々をどう大事にし、本当に応援してもらえる状況を作っていけるかが今後の大きなポイントになると思います。</p>
黒崎委員	<p>この未来ビジョンを見ると、スケッチを見ているだけでもまちがよい方向に変わっていくというイメージが持てます。鳴門駅が動くことによって、谷通りが川とつながって、かわまちゾーンやハーバーゾーンからにぎわいが生まれて、鳴門に新しい風が吹いていくんだろうなという印象を受けます。</p> <p>コンセプト案については、4つある中で1つ目が良いと思いました。「むやるじよなると」については、撫養の語源の意味を今回初めて知りましたが、なかなかパッと浮かばないので、コンセプトとしては少し難しいのかなと思います。</p>
森下委員	<p>ビジョンの素案を拝見して、私が一番心に響いた言葉は5ページの「このままでよいのか」という表現です。未来ビジョンに込めた思いのページで、このように表現しているのはとても良いと思いました。</p> <p>行政だけでなく、市民側も同じように危機感を持っているということを示し、多くの人に現状を知ってもらうことが大切だと思います。そのうえで、「一緒にやりましょう」という動きが広がっていくようにしていく必要があるのではないかと感じました。</p> <p>コンセプト案についてですが、「むやるじよ」という言葉はすごい難しく、鳴門の子は語尾に「じょ」をつけて「むやるじょ」と言うのではないかとも思いましたが、考え始めると沼にはまってしまいそうです。コンセプトに関してはどれも良いと思っていますので、お任せしたいと思います。</p>
永易委員	<p>10ページ以降に活動イメージが示されており、具体的にどのように使われるのかといったイメージ図や、実際これを実施することでどういうことができるのかがイメージ出来る内容になっていて、良い形だと思いました。</p> <p>一方で、鳴門駅周辺のまちなかについては、最初からまちなかに焦点が当てられているため、鳴門市全体の中で駅周辺がどのような位置づけにあるのかと</p>

	<p>いった説明があるとよりわかりやすくなると思います。</p> <p>また、コンセプトについては、私もスッと入って来たのは1番と4番です。言葉として、赤字の部分だけで意味が通るということが大事なのではないかと思ひます。それぞれ“つどう”“つながる”“そだてる”とありますが、個人的には“つながる”という言葉が人と人、場所、次の世代など広い意味を持たせることができる言葉だと思ひますので、そのような意味合いで使っただけだととても良い言葉なのかなと感ひしました。</p>
林委員	<p>鳴門市のポテンシャルについて、観光にしても、まちの歴史にしても、他のまちにはない魅力が鳴門市にはあります。鳴門市は全く悲観するようなまちではないと思ひていまして、それらを今後どうやって残していくかということがまちづくりの重要な視点ではないかと思ひます。</p> <p>市民もこのビジョンのイラストを見ることで、鳴門のまちがこんなに良い方向へ変わっていくんだというイメージを持つことができると思ひます。別の会議で議論されているような内容もこうしたイラストに取り入れていく形にできればさらに良いのではと感ひしました。</p> <p>また、JRの駅を基準に新しい鳴門のまちを作っていく中で、例えばバス会社がそこをつなぐ仕組みであったり、歩いてまちを回遊できる仕組みなどそうしたまちのつながりも今後作りこんでいければよいと思ひます。</p> <p>ただ、こんなに魅力的なビジョンができてしまうと、これを見た人は必ず期待を持ちますので、「あ、やっぱり実現出来ないんだな」ということにならないようにしないといけないと思ひました。</p> <p>コンセプトはどれもいいと思ひますが、鳴門の人は「じょ」ではなくて、「か」を使うイメージがあります。鳴門市は広いので、正解は無いと思ひますが、出来るだけわかりやすく長すぎない表現がいいかなと思ひます。内容としてはどれもいいと思ひますので、今後市民等の意見も聞きながら決めていけばいいのかなと思ひます。</p>
河野委員	<p>これまでデザイン会議に参加させていただく中で、身近な商店街や商工会議所の仲間たちと話す機会もありました。鳴門駅が新しくなり、例えば谷通りが国道に繋がることでまちが変わるという話をした際にも、「それをやって何になるのか」といった意見を聞くこともあり、もやもやした思ひを感じることもありました。そうした中で、このような素案が示されたことは非常に意義があると感じています。</p> <p>行政の方はもちろんですが、鳴門にこんなものが欲しい、これが足りないと思ひているのは事業者や市民の方だと思ひますので、そういった皆さんの意見が集約されて、この素案がさらに肉付けされていくことに希望を感じております。</p> <p>また、先日のリノベーションまちづくりにも参加させていただきまして、例えば商店街で空き店舗になっている大きな施設について、どうやって使えるんだろうという議論が話題に上がっていました。こういった取組は、これからの</p>

	<p>未来につながっている活動なんだと理解して、機会があれば率先して参加していこうと思っています。</p> <p>20 ページに実現化に向けた体制を書いています。大きなハード整備が進んでいくなかで、中心市街地だけではなく、鳴門市全体の方がそれぞれの要望や意見を持っていると思います。知らない間に決まっていたということが無いように、多くの市民が参加できいろんな意見が反映される形で進めてもらえればと期待しております。</p> <p>コンセプトにつきましては、「むやるじょなると」が個人的には撫養ならではないなと思っていたところでもあります。</p> <p>どれか一つを選ぶということであれば、1 番を選ばせていただきます。「このままでよいのか」という言葉もとても良かったと思っています。「このままでよいのか」という意識の中でまちが少しずつ良くなって、そこからおすそ分けの余裕が出てくるような、そういった想いも込めて入れさせていただけたらと思いました。</p>
西谷委員	<p>ここまでの話を聞いていると、「このままでいいのか〜むやるじょ」といった表現でもいいのかなど。やはり若い人たちに使ってもらって、発してもらうためには長くなりすぎると覚えにくいかなと思います。</p> <p>ただ、私の中では、「むやるじょ」は少し上から発言しているような言葉に聞こえてしまって、「むやるんじょ」の方が優しくて柔らかくなるのかなという気はしました。</p> <p>また、今回のビジョンで斬新だなと思ったのは、9 ページの俯瞰図です。こういった図は上側が北になる配置が基本だと思うんですが、これは南が上側に来ていて、今までに無い鳴門の絵ですごくいいなと思いました。ただ、本日も話に出ていたプールなどの内容が消えているので少し違和感を感じています。</p>
内藤座長	<p>大まかには私も皆さんと同意見ですが、いくつか意見を伝えさせていただきます。</p> <p>まず5 ページ目。「このまちの未来を50 年先を・・・」と書いてありますが、50 年は長すぎるので、冒頭にも話をした10 年後というのを1つの目安にしてもらいたい。10 年後は今の小学生が大学生になる時代ですので、その方が若い人に呼び掛けるには分かりやすいかなと思います。</p> <p>もう一つは20 ページ目について、北沢先生という人が立ち上げたアーバンデザインセンター（UDC）というものがあります。最初は柏、東日本大震災の際には釜石にも作りました。ここは特に何かがあるわけではないんですが、まちの人が集まってまちの議論をする場所なんです。そういった場所について20 ページ目に表現することを検討してほしい。まちなかのどこか空いた場所に、みんなが議論できるような場所があって、若い子も入って来たりいろんな人がコミュニケーションを取れば最高にいいですね。</p> <p>3つ目は、スポーツ施設について語られていないこと。やはりまちの話と完全に切り離されているのはおかしいと思うんですね。だから、今後の方向性</p>

	<p>が決定してからでも構いませんので、小さい表現でもビジョンに入れて、取っ掛かりだけは作っておくべきかなと思います。</p> <p>コンセプトに関しては、私も1番がいいかなと思いますが、他のものに決まっても文句はありません。私は「いい風を吹かす」という言葉がまちづくりの一つのキーワードだと思っていて、いい風を吹かすと自然と民間の人たちも集まってきた、いろんなことがうまくいくんです。</p> <p>渋谷では20年まちづくりをやっていますが、「渋谷どうなるんでしょう」って行政の人からも民間の人からも聞かれるんですけど、「いい風が吹き始めているから大丈夫」ということにしています。それはみんながやる気になってきているということです。まちづくりで大事なのは「いい風を吹かせる」こと。コンセプトのタイトルが変わっても、これは言葉として残すといいかなと思います。</p> <p>あと一つ申し上げておきたいのは、まちなかの都市計画はコンセプト倒れになることも多いです。ただ、今回 JR さんの協力を得て、我々は鳴門駅が動くかもしれないというところで議論をしているので、それはすごく大きな話です。つまり、行政がはっきりとした意思を示すということ。絵で描いているうちは本気かどうかは伝わりません。なので、行政の本気度を示すという部分についてももう少し強調してもいいかなという風に思います。</p> <p>駅を動かすだけではなくて、まちが変わっていく。ここに撫養街道やウォーターフロント、中心市街地の話が絡んできたり、まちの会所でみんなが集まって色んなことができるようになるという未来が描けると少しずつ希望が生まれて、いい風が吹いてくるという流れに繋がっていきます。</p> <p>コンセプトに関しては、今日ここで結論を出すのか、それともほかにアンケートなどを取って決めていくんですか。</p>
事務局	<p>本日の議論の内容を踏まえて、改めて委員の皆様にもご説明させていただきながらまとめていければと考えております。</p>
内藤座長	<p>分かりました。委員の意見としては、どれになっても文句は出ないという結論ですので、その前提で調整を進めてください。</p> <p>それでは、次の議題の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(事務局より、議事3 まちのコアについて説明)</p>
内藤座長	<p>連続立体交差については、事務局としてこういった意見を受けているということですね。</p>
事務局	<p>デザイン会議の中で意見は出なかったんですが、徳島市内の高架事業もあるという中でご意見をいただきましたので、検討をさせていただきました。</p>
内藤座長	<p>連続立体交差事業は国交省が JR と連携して進めるべき事業とのことで、2.30年ほど実施されてきています。私自身も、旭川駅、日向市駅、高知駅の3つの連続立体交差に関わりましたが、これはかなりの時間が掛かります。鳴門に置き換えると、今後20年くらいは覚悟をしないといけない可能性がある。</p>

	<p>冒頭にも話したように、世の中の流れがそれを許すかという問題があります。立派な連続立体交差ができたけど、まちは疲弊してガラガラになっている可能性も否定できない中で、いまそれをやりますかという印象。</p> <p>連続立体交差事業は、私の知る限りでは、もともとは地方都市でやる話ではないんです。東京や名古屋など大都市での交通量だと十分な効果が見込めるんですが、さほど交通量の多くない地方都市では少し無理がある。まちの衰退や人口動態、今後の様々な変化を想定すると鳴門のまちがそれを待てるのかという不安があり、魅力的な事業ですけどなかなか大変な話。</p> <p>永易さん、何か補足があれば教えてください。</p>
永易委員	<p>コストについて、松山の事例を挙げますと、連続立体交差事業が2キロで約600億円といった規模の事業となります。</p> <p>また、駅自体が上に上がりますので、鳴門駅を立体交差にするのはもったいないという風を感じております。</p>
内藤座長	<p>ついでに言うと、600億の半分は国で、残りの部分を自治体、JRは4%の負担になります。それでもすごい金額になるし、工事中の交通渋滞やいろんなことを勘案するとなかなか大変な事業です。</p> <p>非常に大きい事業なので、こういった比較検討はしっかりやってもらって、そのうえでいろいろなご意見もあるでしょうから、納得してもらえるように進めていきましょう。</p>
事務局	<p>そういった中で、今後3案から絞っていければと考えております。</p>
内藤座長	<p>はい。それでは、最後の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(事務局より、今後の会議の進め方について説明)</p>
河野委員	<p>次回6回目の会議も楽しみにしております。</p> <p>1点だけ、社会実験については、次回の会議で来年度に実施する社会実験の案が出てくるという認識でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、具体案の方向性を検討しておりますので、4、5月になれば動き出して、皆様に見ていただけるようになっていくかもしれません。</p>
内藤座長	<p>どんな社会実験をやるかって決まってないの？</p>
事務局	<p>駅周辺に若者がたまる場所が無いという課題がありますので、まずそういった場所を作ってみて、若者の動向や要望について聞き取りなどを行う中で、今後のまちづくりに反映していければと考えております。</p>
内藤座長	<p>道路での社会実験はやらないんですか。</p>
事務局	<p>まず最初にまちのたまり場というところでの社会実験を実施し、そのあと商店街やほかの方向性も検討していきたいと考えています。</p>
内藤座長	<p>道路の社会実験はやってみてもいいんじゃないかと思うんですけどね。渋谷では宮益坂で交通を止めてほこてん化する社会実験をやったり、道玄坂でも社会実験をやって、将来的に歩道を広げるような計画も持ってます。</p> <p>大都会でもやってるんだから、鳴門でもどんどんやればいいと思うんです。みなさんの意見を踏まえたくら、交通計画をしっかり整えて問題の無い範囲</p>

	で展開するくらいのスピード感でやったらどうでしょうか。
事務局	そういったところも検討していきたいと思います。
内藤座長	<p>道路管理者の人たちがなかなか手強いのは知ってますよ。確かに、道路管理者の気持ちも理解できて、交通事故が起きた時などに責任問題になってしまいます。だけど、そこを乗り越えていかないと新しいまちづくりはできないので、社会実験を経てビジョンを持つということが大切だと思います。</p> <p>この会議と少し違う話になりますが、四国地整に言いたいことがあって、市役所前の国道のイチョウの強剪定には文句を言いたい。国道には本当はものすごいイチョウ並木が並んでいて、これが育っていたらまちのイメージが全然違ってきますよね。管理として、毎年剪定するとお金がかかるので、数年に一回「強剪定」といって短く切ってしまいますが。これが長年伸びていたら空港から市役所に来る際に素晴らしいイチョウ並木ができていたと思う。道路管理者の言い分もありますが、それはそれとして、街からも言いたいことは言うべきです。</p> <p>新宿駅では、駅前に大きな広場をつくる際に、大きな木を植えようという話になって、その時の交渉相手が道路局でした。枝の管理や歩行者への安全対策などで文句を言われましたが、その時にね、それなら甲州街道のケヤキ並木はどうするんだという話をしました。やはりあれはまちのシンボルになっているわけで、確かに枝が落ちてきたりといった問題はあるんですが、みんなに愛されているんですよ。それがベースにならないといけない。それでいうと、この国道沿線のイチョウ並木は愛されないイチョウ並木になってしまっているの、あの状態なら切ってしまった方がいいと思う。国の管轄なのであまり関係ない話ですけど。</p>
河野委員	谷通りにも桜の木があって、花見に来るような人もたくさんいたんですが、施設を利用している人から意見があったのか知らない間に3本くらい切られてしまって、非常に残念に感じたことがあります。もっと木々はいっぱいある方がいいと思います。
内藤座長	<p>本当は鳴門の中心市街地も木々がもうちょっとあったほうがいいんですよ。特に日差しが強いところだから、そういう憩いの場所が各所にできないと、いくら建物を建てたりハード整備をやっても安らぐ場所が無い。</p> <p>道路管理者の立場も理解できますが、一緒に仲間になって、未来のビジョンを共有することが大事。社会実験には道路管理者の言い訳をちゃんと作ってあげるとい意味合いもある。道路管理者と協力して、もう少し柔らかいまちを作りませんかということを言いたい。</p> <p>区画整理について伊藤滋先生というえらい方がいるんですが、その方がとある委員会で区画整理をやっていいまちが出来るわけがないって本人が言っていました。区画整理は、行政の魔法の杖みたいなところがあって、あまり財源を出さずにまちなみ整備ができるということで、戦後みんな区画整理をやりました。それでかなりのまちが失敗している。私がまちづくりに関わった周南市も</p>

	<p>区画整理事業をやりましたが、まちづくりを進める際には本当にうまくいかない。</p> <p>鳴門市も過去に区画整理事業を一生懸命やったわけだけど、今となってはそれがマイナス要素になっている。それをどうしていけばいいかと言うと、社会実験などを通して、行政の固い縛りをほどいていく、そのためのツールが社会実験なんだと認識してほしい。</p> <p>社会実験は行政とエリアマネジメント団体が主体となって、共同で地元との合意を作って進めるという手法になります。なので、商店街なのかまちづくりNPOなのか分からないけども、行政と民間の間のような管理運営してくれる団体の存在が大事なポイントになると思います。</p> <p>行政の壁というのは、それぞれの立場を理解すれば解いていけると私は思っていますので、10年後に今の若い子どもたちがまちの主要メンバーになった時、胸を張れるようなことをやっていかないといけない。行政の縦割りもいろいろあると思いますけど、それをできるだけ繋いでいく必要がありますよね。</p>
池田委員	<p>社会実験についてなんですが、大道商店街や汽車公園の近く、ウォーターフロント付近などで検討を進めているところですが、徳島市の新町川での社会実験が失敗したという事例もあり、不安も抱えているところです。ただ、座長のお言葉で勇気づけられましたので、頑張っていきたいと思います。</p>
内藤座長	<p>うまくやってください。住民の人がみんな「いいよね」と思ってくれるようなことが出来るとその人たちはサポーターになってくれます。逆に良くないと思われたり、無関心だったりすると、それは失敗で次につなげることが出来なくなります。うまく地元の方々や責任を取る管理者、警察の方とも話をしたうえで進めていってください。住民の人がこれはいいですよって雰囲気になると管理者側も変わってきますからね。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>素案につきましては、委員の皆様にご相談しながら内容を調整させていただきます。ご協力の方よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、これをもちまして、第5回 鳴門市まちづくりデザイン会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。</p>